

## 続・朝鮮通信使について

江戸幕府が「よしみ(信)をかわす(通)」の意で、二百数十年間、招聘し続けた朝鮮半島からの500人規模の文化使節団『朝鮮通信使』。この『朝鮮通信使』を今日の日韓の新しい交流プロジェクトとして展開していくのが『続・朝鮮通信使』です。

### (1)なぜ朝鮮通信使に興味をもったのか

私たちが『朝鮮通信使』に興味をもった理由のひとつは、日本と朝鮮半島という国家間の外交プログラムが、地方都市のホスピタリティのリレーで支えられていた点です。各都市(各藩)が人的・文化的な財産を総動員し、独自の方法で異国の客人を迎え入れ、信(よしみ)を通(かわす)。このことは既に言及されているように、江戸時代中期以降は中央集権的な国家から、地方自治の連合政権、都市の時代へという史実を浮上させます。実際20日間ばかりの2010年の旅でも、「独自性のある豊かな街の連鎖」を垣間みることができました。もうひとつの理由は、韓国の様々な都市の方々が、

BankARTを訪ねて下さったことです。横浜市が推進する創造都市構想プロジェクトの視察が主な目的ですが、年間10を超えるチームが毎年訪ねてくれました。日本国内の各都市も同様で、歴史的建造物を活用して何かを計画をしている自治体は、必ずといっていいほどBankARTを訪ねてこられました。こんな状況の下、こちらが何も反応しないわけにはいけない、訪ね返しの旅を行ないたいと思いはじめました。これが『続・朝鮮通信使』をはじめの直接的なきっかけです。そしてまたこれはBankART事業が標榜してきた「他都市及び国際的なネットワークの構築」に正に合致するテーマだったのです。

### (2)『旅する街=トラベリングシティ』

このプロジェクトのヒントになることが、今から1300年位前に、日本列島のひとつの島、「四国」ではじまっています。それは「四国遍路」です。もともとは空海という真言宗を開祖した偉いお坊さんが修行した足跡を、弟子達が訪ね歩いたことに起を發しますが、江戸時代初期(約400年前)には、民衆も四国88カ所のお寺の遍路を始め、『訪ね歩きなさい、そうすると不幸から開放されますよ』というような概念が生まれてきます。真言宗の教典は難しく、一般の人が理解できるようなものではありませんが、お寺を巡るということは、ひとつの旅ですから、今という観光のような要素がはいてきます。お寺を巡る事で、人々はその地域の風物を楽しみ、そこに住む人とふれあい、新しいネットワークが育まれていきます。千数百キロにも及ぶ長い旅路ですから、当然、宿が必要になります。お金のない人に対して、自分の家を無償で提供する人があらわれます。お金もっている人に対しては、立派な旅館が道中に準備されます。食べものについても同じようなことが生まれます。それは道程に、地域の人が協力しながら飲食を備えてくれるという信じられない慣習(功德)です。一方、旅する人のための、お土産物屋やレストランを開く商人もいるわけです。ファッション等でも同じ

現象がおこります。このように、もともとは修行としてはじまったものが、それを巡る人をきっかけに『旅する街=トラベリングシティ』とでもいえるようなネットワーク(街)が、生成してくるのです。「四国遍路」は1,300年の時を超え、今でも年間数十万の人々が四国を訪れ、四国という閉じた島の経済を外部から支える仕組みにもなっているのです。この「四国遍路」、まさに「文化観光」は、高齢化を迎えた日本に様々なヒントを与えてくれます。「知を楽しむ」「風物を楽しむ」「健康を育む」「共有する」という、これからの社会にとって最も重要な要素が全て含まれているという過言ではないでしょう。「朝鮮通信使」も同様です。もともとは外交の、しかも最初は秀吉時代の不幸な関係を緩和するためのものでしたが、次第に「文化交流」の様相を帯びてきます。人が幾度も同じ道を往來するというのは、まさに物や風物が重なり、文化が重なり、心が重なっていくことだったのです。

### (3)続・朝鮮通信使の行方

さてこのプロジェクト、どこまで続くのでしょうか? 2010~2012年度はリサーチも兼ねたイントロダクション。翌年2013年度は再び規模をあげて瀬戸内海を中心にプログラム。2014~2015年度は、レジデンスや会議、展覧会などを含めた人的交流。当時のスケール500人規模の招聘と4,000人もいわれるクルーを実現するには、数多くのハードルがあります。滞在を受け入れてくれる都市との協働関係の構築、法的・感情的なハードルのクリア、全体を支える経済の仕組み、等等。これらの課題を焦らないで、じっくりと突破していきたいと思えます。幾度も往來することで、日韓の間に横たわるいくつもの誤解や隠された真実などを開いていき、溶かしていきたいと考えています。そしてそう遠くない将来、この往來の中から「四国遍路」のような時代を超える『旅する街=トラベリングシティ』が生まれてくることを願いたいと思います。

江戸時代の『朝鮮通信使』をヒントに、今日の日韓の新しい文化交流のプロジェクトとして展開する『続・朝鮮通信使』。お互いの施設を往來し、ミーティングや展覧会を重ね、共に旅することで、物や風物が重なり、文化が重なり、心が重なっていく、『旅する街』を構築していくプログラム。

# 続・朝鮮通信使

## 속·조선 통신사

### A Contemporary Sequel for the Joseon - KOREAN DIPLOMATIC EXPEDITIONS

# 2016夏・秋



越後妻有 Echigo-tsumari



9/17 横浜 (BankART, 他) Yokohama



8/11-18 韓国



9/13 プサン/釜山 Busan



9/13 京都 Kyoto

9/15 名古屋 (あいちトリエンナーレ) Nagoya

9/16 静岡 Shizuoka

9/16 浜松 Hamamatsu

9/14 伊勢 Ise

8/29 神戸 Kobe

8/30 大阪 Osaka



瀬戸内国際芸術祭2016 Setouchi International Art Festival

8/26 犬島 Inujima

8/27 宇野 Uno

8/25 高松 Takamatsu



# 続・朝鮮通信使

## 속・조선 통신사

### A Contemporary Sequel for the Joseon - KOREAN DIPLOMATIC EXPEDITIONS

# 2016夏・秋

#### 続・朝鮮通信使2016前期

ソウルや光州、釜山等の大都市の人たちとは継続的な安定した往来が続いているが、最近では地方都市のチームがよく訪れてくれる。今年の夏は、そういった街や組織の訪ねる旅にしようと思う。坡州市、安山市、世宗市、亀尾市、南原市等、15チームぐらいを訪ね、ミーティングを繰り返す予定だ。

夏、今年は瀬戸内国際芸術祭の年なので、サンドラム(打楽器チーム)とそのコラボレーターの韓国ミュージシャンや行政マンとともに島から島へと瀬戸内を巡る予定だ。そのあと神戸、大阪を経て、南港(大阪)から船に乗り瀬戸内海経由で釜山へ。釜山ビエンナーレを訪ねる。

秋、東海道は、伊勢を起点に、名古屋、浜松、静岡、横浜を往く予定だ。

#### 2016.8/11-18 韓国

8月11日[木]～18日[木]

パジュ/坡州

↓

ソウル

↓

アンサン/安山

↓

セジョン/世宗

↓

グミ/亀尾

↓

ナムウォン/南原

↓

クワンジュ/光州

など

#### 2016.8/25-9/3 瀬戸内～大阪～釜山

8月25日[木] 高松

(瀬戸内国際芸術祭2016)

↓

8月26日[金] 犬島

(瀬戸内国際芸術祭2016)

↓

8月27日[土] 宇野

(瀬戸内国際芸術祭2016)

**サンドラム+パク・ヨニ公演**

↓

8月28日[日] 瀬戸内国際芸術祭2016

↓

8月29日[月] 神戸

(KIITO | デザイン・クリエイティブセンター神戸)

↓

8月30日[火] 大阪

(名村造船所大阪跡地・クリエイティブセンター大阪)

↓

8月31日[水] 大阪→釜山

↓

9月1日[木]～3日[土] 釜山

(釜山ビエンナーレ)

#### 2016.9/13 - 9/17 京都～横浜

9月13日[火] 京都(HAPS、京都駅周辺等)

↓

9月14日[水] 伊勢(三重)

↓

9月15日[木] 名古屋

(七里の渡し→中川運河リミコライン・アートプロジェクト→みなとまちアートテーブルなごや[MAT, Nagoya]→あいちトリエンナーレ2016)

↓

9月16日[金]

静岡(久能山東照宮)、浜松(鴨江アートセンター)

↓

9月17日[土] 横浜

(BankART Studio NYK)

**サンドラム+イム・スンファン+イ・ソンス公演**

お問い合わせ BankART1929  
〒231-0002 横浜市中区海岸通3-9  
TEL 045-663-2812 FAX 045-663-2813  
info@bankart1929.com  
※期間中(8/11-18、8/25-9/3、9/13-9/17)は  
TEL 090-3804-8171

※ミーティング、シンポジウム、パレード、コンサート等、随時行う予定。

#### サンドラム

2009年、結成。現在、坪内敦(per.)、善哉和也(vo.)、大島菜央(dance)、ハブヒロシ(per.)、荒井康太(dr.太鼓)、ArisA(vo.)、亀田欣昌(dance)、ツダユキコ(vo.)、石本華江(dance)の9人のメンバーが活動している。様々なバックグラウンドを持つメンバーが、打楽器と歌とダンスによる、プリミティブでハイエナジーなパフォーマンスを創造する遊動芸能家集団である。東京を活動拠点に、メンバーがツアーを繰り返し、国境を越えて各地で観客を巻きこみ祝祭的な空間を創り出している。2015年横浜台北交流事業でTAVに3カ月滞在。

#### パク・ヨニ

伽椰琴(以下カヤグム)奏者及びカヤグム教育者。国立国楽中高校、ソウル大学国楽科でカヤグムを専攻。また、国家重要無形文化財第23号、カヤグム散調の履修・試験通過者。国楽の他、アフリカ音楽を基盤とするワールド・ミュージック・グループKANのメンバーとして活動しながら演奏の幅を広げるなど、韓国の伝統音楽の語法を基盤に多様な国籍(日本、インド、アフリカ、アメリカ)のアーティストたちとコラボレーションを続けている。

#### イム・スンファン/林承奐

韓国全羅北道に伝わる高敞農楽の奏者。プポチュム(頭に羽で作られた花をつけて踊る舞踊)やソゴチュム(小さい手持ち太鼓の踊り)を得意とし、ユーモアとクールさを兼ね揃えた独特の魅力を持つ演奏者である。

#### イ・ソンス/李性洙

韓国全羅北道に伝わる高敞農楽の奏者。チャング(砂時計型の両面太鼓)、テピョンソ(ダブルリードの管楽器)などの楽器で農楽本来の「味」を追及する一方で農楽を現代の人々に面白く伝える稀有な演奏者。

※SUNDRUMとイム・スンファン、イ・ソンスは2014年にバンカートで衝撃的な出会いを果たし、それ以来日韓両国でコラボレーションを重ねています。

#### 続・朝鮮通信使のこれまでの歩み2010-2015

##### 2010年 春 横浜

##### BankART スクールのゼミ「朝鮮通信使への招待」

朝鮮通信使研究の第一人者仲尾宏氏を招き、8回の連続講座を行なった。もうひとりの重要な研究者故・辛基秀氏の娘さんは、現代美術のコーディネータの辛美沙氏。辛母子のゲストークも実現。

##### 2010年 夏 8/6-8/31 ソウル～瀬戸内～越後妻有

8月6日、日韓の主にクリエイターからなるクルー約20名が、現代版の衣装を身にまとい、オリジナルな旗と音楽を掲げて、20数日間キャラバンを行なった。ソウルから釜山へ、釜山から対馬へ、そして博多へ。下関からは船をチャーターし、大阪まで14日間の船旅。瀬戸内国際芸術祭2010の正式参加プロジェクトだったこともあり、とりわけ瀬戸内海の通信史ゆかりの街は丁寧に巡った。下関、宇部、上関、下蒲刈島、今治、鞆の浦。そして瀬戸内芸術祭のシンポジウムにも参加し、再び牛窓、備前、室津、神戸、大阪へ。そしてあいちトリエンナーレを経て横浜へ。その後も新潟県越後妻有まで脚をのびした。



##### 2011年 春 4/28-5/6 ソウル～釜山

韓国国内を巡るツアーを「続・朝鮮通信使研究会」のメンバー15名程で行なった。インチョンやキョンギドウ等に誕生した新しいアートスペースを巡りながら、ソウル～安東～大邱～慶州～ウルサン～釜山と東周りで南下。釜山では文化財団が新しく開館した「朝鮮通信使博物館」のお祝いや、朝鮮通信使祭りのパレードにも参加。韓国国内は通信使にゆかりのある街は少ないが、巡ってみると予想外な出会いがある。例えば大邱の郊外の村では、加藤清正が出兵した際に残留したといわれる武士の19代目の子孫にあたる人たちの日本人村に出会った。100歳になろうという老夫妻が日本語を話されていたのには驚き。



##### 2011年 夏 8/6-11/6 新・港村

横浜トリエンナーレ2011と特別連携して開催した「新・港村」というプロジェクトの中で、数多くの韓国チームを招聘した。ソウル・アートスペース・グムジョン(ソウル文化財団)、totatoga(釜山)、釜山文化財団(釜山)、net-a/中亜大学校石堂学院(釜山)、ピジョンアートセンター(富平区/仁川市)、FREEZOOM(京畿道)、ムンレアーティストビレッジ(ソウル)、オルタナティブスペース LOOP(ソウル)、オルタナティブスペース Bandede(釜山)、オープンスペース Bae(釜山)、noridan(富川その他)、TETSUSON 韓国チームなど等。その際チームが活用するスタジオ空間として、江戸時代、釜山にあった草梁倭館(日本人居留地)の一軒を再現した。会期中は、この草梁倭館を中心に、日韓の多彩なイベ

ントが連日開催された。とりわけ対馬市長、釜山文化財団事務局長、仲尾宏氏等を招いて行なった「日韓交流の新しい可能性～朝鮮通信使を起点に」というシンポジウムは、意義のあるものだった。



##### 2012年 秋 9/14 -9/17 東海道+横浜～越後妻有

ノリダン(打楽器隊/韓国)とサンドラム(打楽器隊/日本)を招聘し、BankARTの拠点がある横浜内外地区をパレードした。その後、場所を新潟に移し、大地の芸術祭開催中の越後妻有で、このふたつの打楽器チームと共に十日町市や津南町を巡り、「農舞台」で行なわれた芸術祭のファイナルイベントに参加し、大きな盛り上がりを見せた。



##### 2013年 夏 10/6-10/27 対馬～清洲～瀬戸内～愛知

2013年のツアーは天候に恵まれなかったが、通信使の「潮待ち、風待ち」をあらためて実感した旅でもあった。まず飛行機で対馬に渡り「対馬アートファンタジア」を訪問。その後、釜山へ。KTXで釜山から清州へ。「清洲国際工芸ビエンナーレ」の公式シンポジウムに参加し、横浜とBankARTについての発表を行う。そして、ソウル、仁川(松島)のオルタナティブスペース、ノリダンの本拠地の富川を訪問し、台風に押し出されるように福岡に戻る。福岡からは陸路で松山、丸亀、今治、広島、倉敷、岡山を巡り、呉にてチャーター船と合流。ツアー参加者もここから大きく増える。下蒲刈島では朝鮮通信使再現行列に参加。鞆の浦、百島の「ART BASE MOMOSHIMA」を経て、「瀬戸内国際芸術祭2013」のエリアへ。全ての島を巡る。釜山文化財団のチャさんも高松から参加。最後は小豆島の福田地区に滞在。福田港～姫路～名古屋ルートで「あいちトリエンナーレ」を訪問。スピード感のある充実した旅であった。2013年冬からの大阪から東京へ巡る予定は諸事情で中止。



##### 2014年 夏～秋 横浜

この年は横浜トリエンナーレ2014と連携した「東アジアの夢」と称した大きな展覧会を開催。文化庁が推進する東アジア文化都市構想の特別プログラムでもあり、東アジアの作家を数多く招いた。とりわけ韓国からは、「ノリダン」を10人編成のチームとして招き、大きな操り人形を滞在制作してもらった。またスプロケットという廃品を活用した多数の楽器からなる巨大な「現代の山車」も出品してもらい、制作した人形とともに横浜の街を闊歩した。2012年夏の妻有でのコラボレーター「サンドラム」との共演が再び実現。8.21から、韓国でも、これから開館する光州のアジアハブセンターの関連イベントで30ヶ国のアジアのチームが集まり、シンポジウムと展覧会があり、BankARTは開発好明氏を紹介しながらプレゼンテーションを行なった。2014年はその後も、様々な日韓関係のイベントが続き、とりわけ光州市立美術館が企画したBankART Studio NYKの3Fで行なった「光の都市 光州」という展覧会は秀逸。その後も規模はそれほど大きくないが、日韓関係のプログラムが続いた。また12月には釜山の近郊都市「金海」でBankART(池田)がコーディネートし、開発好明氏と高橋啓祐氏がグループ展に出品。



##### 2015年 春・夏 横浜・釜山・妻有

再び仲尾宏氏を中心に「朝鮮通信使 part2」のゼミを開催。また毎年釜山で行なわれている朝鮮通信使祭りにバンカートから2名が招待され列席。8月29日、シンポジウム「日韓交流の新しい可能性 part2～朝鮮通信使を起点に」を越後妻有大地の芸術祭の開催される中、十日町情報館で開催。パネラーには、京畿文化財団文化芸術本部本部長チャ・ジュン氏(当時)、朝鮮通信使研究者の仲尾 宏氏、建築史家の三宅理一氏、大地の芸術祭総合ディレクター北川フラム氏。



##### 2015年 秋 光州

光州市立美術館の企画展示室で、BankART1929が企画する大規模な展覧会を開催。朝鮮通信使にまつわる展示も行う。横浜市文化観光局部長、みかんぐみ曾我部氏、小泉アトリエ小泉氏を招いてのシンポジウムも開催。またアジアハブセンターオープンに際して、アジア30カ国が参加する国際会議にも参加。

